

んでいました。

「見かけない男があの辺に船を浮かべていたが、あやつが仕掛けたに違いない」——憤りを押えるように、知らてくれた池の近所の人は、本当に悔しそうでした。本当に残念なことだつたと思います。

昭和40年、合併10周年の式典が横芝中学校講堂で開催されました。

長い間老人ホームのお年寄りに、無料で調髪奉仕を続けておられた、道貫の海保能夫さんに對する感謝状をはじめ、合併功労者77名、永年勤続職員17名が表彰されました。受賞者を代表して謝辞を述べられた、元大統領村長土屋熹一さんの、満ち足りたような笑顔が忘れられません。

発見者の機敏な処理と、有放の緊急連絡が効を奏したという事実があつたのです。

昭和41年8月8日未明、長倉の伊藤尚明さん、とよ子さん夫妻は、異様な物音に目を覚まして、長倉地先の両総用水路の決壊を発見しました。「一大事」と気づいた尚明さんは、自転車を揚水機場に飛ばし、とよ子さんは近所の家々の戸をたたく一方、有線放送に緊急連絡を依頼した

（中央は常陸宮妃殿下）

月10日に通話開始、通話局は77局」と報じています。

この開通を前にした8月、追加申込みが殺到しました。既に回線が決定した後で、その受付ができない職員が頭を抱える場面がありましたが、それには水路決壊の災害拡大防止に、第一

「コンバイン」「構造改善」などの用語が、日常会話に使われるようになつてきました。昭和41年、今まで町内だけに限っていた有線放送電話が、県内ほとんどどの局と通話ができる「公社接続」となりました。そのPRで「9

のです。

「伊藤さんの機敏な処理と、有放の連絡がなければ、この災

害は数倍になつていただろう」とは、両総用水の幹部職員のことばでした。

事故防止に交通指導員が活躍



被害のつめあとも生々しい、両総用水決壊現場 (S.41.8.8 長倉)

バイパスの新栗山橋が開通したのは、昭和44年のことです。この橋は横芝町と光町の行政区域を分け、成東・八日市場両警察の管轄にもなっています。そのため、開通式は横芝町と光町で共催し、来賓も両署から招くという広域的なものでした。バイパス開通を祝った後、どうしてか、横芝・松尾地先での交通事故が多発しました。このことを憂いた椎名登町長は、町の交通指導員制度を設け、既に成東警察署管内の交通指導員として活躍していた渡辺功さんを

（つづく）

災害に効果を発揮——有線放送

ストセラード老人問題がクローズアップ

48年

広域行政組合養護老人ホーム完成
若潮国体炬火リレー町内を通過

石油ショックでパンツク現象起る

49年

都市広域水道企業団設立
栗山中央道路開通
大総小に町内初の防音校舎完成
インフレ極まり社会不安

深刻化、超能力ブーム、
三菱重工ビル爆破

50年

町村合併20周年記念式典
横芝町史発刊

町長に佐瀬哲司氏就任
物価高騰で国民生活圧迫、失業者百万人突破、沖縄

海洋博覧会開く

51年

運動広場野球場オープン
空港関連問題対策委員会設置

支10億円予算突破の「文化と産業の町横芝」へと、発展を遂げ

きり